

児童発達支援自己評価・保護者評価

(別紙3)

○事業所名	公益財団法人東京カリタスの家 子どもの家エラン			
○保護者評価実施期間	2024年 12月 16日		～	2025年 1月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数)	16名
○従業者評価実施期間	2024年 12月 16日		～	2025年 1月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	勉強会・懇談会の実施	保護者の仲間づくりと、この先お子さんがたどる道筋についての見通しを持ち、自分自身でお子さんを支援していけるよう、通園クラスでは保護者勉強会か懇親会を月に一度実施しました。特に、今年は各家庭で工夫していることを持ち寄って発表していただく勉強会を初めて実施し、好評でしたので次年度も開催予定です。また、仲間を作る機会の少ないお父さん会を土曜日に実施し、こちらもご好評をいただいています。	引き続き、保護者勉強会と懇談会、お父さん会の実施を行うとともに、保護者同士で話し合いながら子育ての中でのホメ上手を目指す「ペアレントプログラム」も次年度は実施したいと考えています。
2	保護者に寄り添った支援	幼児期のお子さんに支援をする事業所として、悩みや心の揺れの大きい保護者の気持ちによりそってお話を聞き、一緒に考えることを大切にしています。また、卒園後も気軽に尋ねてきて、仲間と情報交換したり、職員に嬉しかったこと・大変なことを話したりできるように、園庭開放・卒園児保護者の会・ホームカミングデイ等のイベントを実施しています。卒園してもつながっていられる場所になりたいと考えています。	現在の支援を継続していくとともに、卒園児保護者の会はより定期的に実施し、現在ご利用中の保護者の方も混ざって、学校生活の実際について聞くことができるような会も開催予定です。
3	環境の構造化	お子さんにスケジュールや活動場所・内容がわかりやすいよう、目に見える形でスケジュールや活動内容を示しています。その場所に行ったら何をするのかをすぐ理解できるよう、大きな部屋を適宜区切ってエリアを設定しています。	毎年利用されるお子さんには変化がありますので、その時利用しているお子さんにとってわかりやすく使いやすいように、模様替えをしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員定着	職員の不満や問題意識の汲み取りが十分にできていなかったこと、また、物価高に給与面が対応できていないこと	管理者や理事による面談数を増やし、職員の働きにくさや不満を早期に汲み取れるようにします。また、処遇改善加算の導入も検討し、給与面の改善を図っていきます。
2	支援計画を作成したのちの、保護者説明の時期の遅れ	計画を作成したのち、説明を行う時期を予定に入れることを忘れていたケースがあり、保護者説明が遅れてしまうことがありました。	文書作成にAIを導入するなど、可能な部分は効率化すること、またモニタリングの時期や計画説明の時期を一覧表にすることで抜け漏れがないようにしていきます。
3	地域連携。特にエランのみをご利用のお子さんが他園のお子さんとの関わる機会が薄いこと	コロナの時期に、他園のお子さんとの交流を持つ機会が断たれたままとなっています。また、エランをご利用のお子さんが通う園への見学が、職員の時間が取れず、保護者のご希望より時期が遅れることがありました。	近隣の他園のお子さんと交流する機会を作ってまいります。また、職員それぞれのスキルを向上し、クラスプログラム中に職員が一人抜けて他園の見学に行ける態勢を整えていきます。